

---

JT 生命誌研究館の基本コンセプトと日常とを小さな生きものたちを通してお伝えする映画、楽しんでいただけましたでしょうか。

---

---

今から 30 年前、生命科学が大型プロジェクト化し、生きものからたくさんのデータを取り、役に立つ成果をあげようという方向に動き始めていたときでした。私たちも生きものなのだから仲間たちが語ってくれることに耳を傾けて、生きているということを大切にする社会にすると暮らしやすくなるのにと考え、チョウ、ハチ、オサムシ、クモ、イモリ、カエルなどにつき合い始めました。

---

---

みんな素敵な物語りを語ってくれるので、楽しい日々を送っている中で、10 年たった時、研究館の活動を時計会社 Ω が評価して、賞をくださいました。

---

---

その時、それぞれの生きものを見るだけでなく、生きもの同士の関係から自然を見るのが面白いと分かり始めてきていましたので、少し調べてみたのです。すると昆虫と植物の関係という切り口が面白いとわかり、しかも昆虫館や植物園はたくさんあるけれど、関係を表に出した食草園はどこにもないことに気づいたのです。

---

---

ないと聞くとつくりたくなる癖があります。とはいえ我々の研究館には土地の余裕はありません。4 階にある館長室のまえに小さな屋上、しかも高い壁に囲まれた空間があるだけです。こんなところにチョウが舞い込んでくるかしら。

---

---

私は、岡田初代館長と違って、ムシ屋さんではありません。何も知らないのが幸いすることもありますね。

---

---

よく知っていたらここにはつくらないでしょう。「どうしても食草園が欲しい」その思いで作った小さな園。見ていただいたように、館のメンバーの愛情にこたえて千客万来の場となりました。おそらく高槻の生きもの仲間のうちに「あそこに行くと楽しいよ」という情報が飛び交っているのだと信じています。本当に仲間です。

---

---

研究館の基本にある「愛づる」心が具体的に見られる場所になりました。是非いらしてください。

---

---

科学論文は実証された事実で書きますが、科学を行う日常には、そんな気がするよねということがあります、それが科学を豊かにしてくれます。とくに小さな生きものたちの世界には、そんな豊かさがたくさんあります。そこから思いがけない新しい発見がある。

---

---

生きものがどういうものと聞かれたら、続いていくもの、時を刻むもの、矛盾の塊などいろいろな特性がありますが、予測不可能性、つまり何が起きるかわからないというのもその一つです。

---

---

今日、久しぶりに研究館のメンバーと一緒に皆さまにお目にかかり、思う存分おしゃべりを楽しもうと思っておりましたが、思いがけないことになってしまいました。

---

---

私はどうも分からないこと、新しいことがあると、ちょっと関わってみたくなる性質があるのかもしれませんが。

---

---

新しいウイルスは困りものですが、つき合ってしまった。ご心配をおかけして申し訳ありません。

---

---

コロナウイルス、異常気象、戦争について考えることがたくさんありますが、長くなりません。ただ一つ、生命誌には、武器はありません。皆で武器を捨てるという答えしかありません。そんなバカなことをと多くの方がおっしゃるでしょうから、現在の科学が明らかにした生きものとしてのホモ・サピエンスの生き方を徹底的に考えてみたいのです。

---

---

ほんとうの賢さを生かしたいのです。この映画の先にあるのはそんな世界です。

---

---

2022年7月24日

J T 生命誌研究館 名誉館長

中村桂子

---